資料5

表紙　1ページ

タイトル

民間放送事業者

民放連ユニバーサルサービス部会委員社

ご説明資料

平成２９年10月19日

2ページ

白紙

3ページ

以下、フジテレビジョンの説明。

タイトル

字幕放送への対応について

フジテレビジョン

４ページ

表とグラフ

在京キー５局における字幕放送付与率実績

（＊総務省ＨＰより抜粋）

注）総務省の「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」は、「普及指針」と省略

表

普及目標の対象となる番組における字幕番組の割合

2011年度　90.8％

2012年度　93.3％

2013年度　95.5％

2014年度　98.0％

2015年度　99.0％

2016年度　99.5％

総放送時間に占める字幕放送時間における割合

2011年度　46.1％

2012年度　49.9％

2013年度　52.3％

2014年度　57.5％

2015年度　57.9％

2016年度　59.5％

グラフ

以上の表のデータを折れ線グラフ化

５ページ

フジテレビの生字幕における取り組みについて

2011年3月11日（金）に発生した東日本大震災をきっかけに、大規模災害時における緊急放送への対応が急務であるとの認識から、人員配置や機器設備の体制をあらためて構築し、拡充に努めてきた。これにより、フジテレビの生放送番組における生字幕付与率は着実に上昇。

表

フジテレビ生放送における生字幕付与率（全生放送番組を対象）

2011年度　25.63％

2012年度　32.67％

2013年度　33.82％

2014年度　35.49％

2015年度　45.89％

2016年度　47.69％

震災により交通網が徹底的に破壊され人員確保不可状態で生字幕対応が不可能な場合の対応

右矢印　番組内で必要情報のテロップ挿入や「Ｌ字対応」を行う

首都圏が壊滅的な被害を受け、フジテレビが放送不可能となった場合の対応

右矢印　発局を系列局である関西テレビに移管し、生字幕付与も関西テレビに依頼する。　　（年に一度、発局移管訓練も実施している）

今後も、有事の際の連絡網や人員確保の徹底、そしてさらなるレベルの向上を常に心掛けていきたい。

６ページ

今後の課題・取り組み①

可能時間以外への付与＆コスト削減および人員確保

生字幕スタッフが常駐している時間帯は、生字幕対応可能。しかしながら、常駐時間帯以外で突如大規模災害が発生し、特番体勢になった場合については、フジテレビでは生字幕スタッフが外注であるため、初動が遅れる可能性が高い。また、コストや人員確保面における課題も大きいことから、生字幕、パッケージ字幕いずれにおいても、内製での制作を視野に入れ、次葉に挙げるシステム導入の検討および検証を行っている。

以下、イラスト

イラストの概要

番組音声を３人の入力者がリレー方式でキーボード入力している。

監督者が入力者の文章に間違いがないか監視する。

統合機

３人の入力者が入力した文章を字幕の形式に自動的に整形する。

送出オペレータ

送出オペレータが、ＣＭや提供に字幕がかぶらないよう監視し、字幕の送出開始・停止の操作を行う。

別室の報道センターまたはサブがその様子を監視。作業に立ち会っている字幕ディレクターに電話やＦＡＸで指示を連絡する。

以上でイラストの概要、おわり。

イラストの註

現在は、リレー方式。

リレー方式とは、番組音声を３人の入力者がリレー方式で入力した文章を字幕の形式に整形して送出するシステム。

運用体制　計８名

内訳

入力者　３名

監督者　１名

送出オペレータ　２名

報道＆サブ担当　１名

字幕ディレクター　１名

７ページ

今後の課題・取り組み②

①リスピーク方式による字幕送出

リスピーカーが番組音声を聞きながら復唱した結果を文字変換し、字幕として送出

利点

社内にいるスタッフのみで字幕送出が可能

デメリット

リスピーカーの育成期間が必要（概ね３～６か月）・リスピーカーの声を学習させる必要がある

②番組の音声を直接、音声認識させる方式による字幕送出

番組の音声を直接文字に変換し、字幕として送出。

メリット

リスピーカー育成の必要がなく、誰でも字幕送出が可能 ・社内にいるスタッフのみで字幕送出が可能。

デメリット

複数人の声を同時に認識できないため、ニュース以外の番組での実用化は難しい。

送出マスターから、アナウンサーの声のみをもらう必要がある。

③ＡＩを利用して音声認識させる方式による字幕送出

音声認識ＡＩを利用して番組音声を変換し、字幕として送出

利点

リスピーカー育成の必要がなく、誰でも字幕送出が可能

将来的な技術向上による認識率の高さが期待できる。

デメリット

音声認識ＡＩに関しては学習方法も含め、現段階では時期や価格など未知数なところが多い。

８ページ

第１回研究会で出された課題

地方局への対応について

地方局については、設備、人員、費用、スキルなどすべての面で国の支援が必要

データ放送との連携について

副音声をデータ放送により字幕表示するためには、現行のデータ放送は機能が限られるため、現在放送している副音声の表示処理速度に追いつかず、技術的に困難である。

しかし、現在、スマートＴＶに搭載されているテレビで視聴できるハイブリッドキャスト放送では、ＷＥＢ制作に近い技術でコンテンツを製作しており、ハイブリッドキャスト等の技術の進歩も踏まえた将来的な課題と思われるので、今後も検討し、模索していきたい

字幕付きＣＭについて

平成２２年11月より、クライアントの字幕付きＣＭを継続して放送。トライアルの実績を積み重ねており、今後も、まずは一社提供番組を中心にさらなる可能性を探りたいと考えている。

例）フジテレビでは、下記の番組の中で字幕付きＣＭとして放送中（平成２９年9月現在）

①　毎週土曜日　9:55～10:25　「ライオンのグータッチ」

②　毎週土曜日18:00～18:30　「MUSIC FAIR」

③　毎週日曜日18:30～19:00　「サザエさん」

（いずれもネット番組）

以上でフジテレビの説明、おわり。

９ページ

以下、TBSテレビの説明。

タイトル　解説放送の取り組みと課題

2017年10月

ＴＢＳテレビ

10ページ

ＴＢＳテレビの現状の取り組み①

平成29年度：解説付与番組

１週間あたりの平均付与時間613分（10時間13分）

番組サイドへ解説を制作する体制を一部構築

右矢印　解説放送の制作スケジュールの短縮

（ドラマやアニメなど、解説内容が詳細に及ぶものは除く）

この他、単発番組への解説付与

例　主に自社事業番組等

例　系列局 ネット単発番組

11ページ

ＴＢＳテレビの現状の取り組み②

ＪＮＮ系列局との連携

各局への解説放送の周知を図り、ネット単発番組などへの付与を提案 →平成２９年度より本格的導入

目的

解説放送の地域格差の是正

各局での解説付与する能力の向上

上期の実績

ＭＢＳ　世界！教科書スクープ　54分

ＨＢＣ　お取り寄せレストラン　54分

ＭＢＳ　秘密のレッスン　54分

ＲＫＢ　重松豊の大シベリア5000キロ～日本人が知らない餃子ロード～　54分

ＨＢＣ　希望の海・夢の大地　ふるさと納税探検隊　54分

ＭＢＳ　超一流の超本音ランキング　私が絞りました　54分

ＳＢＳ　なるほど！今、うなぎが食べたくなるテレビ　54分

ＲＫＢ　世界で勝手におせっかい in タイ　55分

ＣＢＣ　〇〇に10万円あげたら こんな使い方されちゃいました！３　84分

番外として

スポーツ中継（野球）に関して、ＣＢＣで試験的に副音声で別の解説実況中継を行なっていて関係者からご好評もいただきました。

12ページ

ＴＢＳテレビの現状の取り組み③

過去５年間における付与率の推移

以下、表とグラフ

分母　総放送

分子　付与率

各年度の推移

平成24年度　1.07％　　放送分数　5,575分

平成25年度　0.90％　　放送分数　4,690分

平成26年度　1.41％　　放送分数　7,373分

平成27年度　2.58％　　放送分数　12,957分

平成28年度　4.60％　　放送分数　22,127分

以上で表とグラフ、終わり。

平成29年度の目標値に向け、解説付与番組を強化編成し、対総放送時間について付与率は計画値を超えています。

在京５局では７時－24時の付与率は11.7％で前年から＋3.3ポイントとなっています。

13ページ

作業工程と制作スケジュール

制作スケジュール（最速のスケジュール）

日数　１日目　素材搬入

日数　２日目　台本制作

日数　３日目　台本制作

日数　４日目　台本制作

日数　５日目　考査・調整等

日数　６日目　収録　ＭＡ　編集

日数　７日目　納品

必要素材

映像ファイル

制作資料（台本、原稿）

キューシート

本編テープ（ディスク）

原稿作成

映像編集ソフトを使用し、本編に音声がない部分を視覚的に確認しながら、作業を進めています。

収録作業

制作時間を短縮化するため、収録時に、解説コメントのタイミングを編集しながら作業を行うなどをしております。

制作作業にあたって

右矢印　番組制作サイドへのスケジュール調整や、搬入素材の確認の周知が必要。

右矢印　制作に一定の日数を要するため、本編の制作スケジュール調整が危急の課題。

14ページ

課題・今後の取り組み

付与番組の編成強化

付与番組・付与時間の向上を目指す。

生番組に関しては解説放送のあり方を研究。

社内における解説放送に対する意識向上。

納品締め切りなど、各部署との協力体制が必要。

解説放送が入れられる「隙間」をつくる番組構成の研究。

文字スーパーの自動音声化・自動送出の実用性の検証を進める。

対外的な解説付与番組の周知

ホームページでの告知方法の改善 ・番組内での解説放送案内の告知方法の改善。

解説放送の質の向上、内容の精査。

活動弁士的な解説者を育成し、リアルタイム解説放送ができないか研究が必要。

新技術の開発・研究

自動音声化・自動送出など、付与向上のカギとなる新技術の開発・研究。

以上でTBSテレビの説明、終わり。

以下、日本テレビ放送網の説明。

15ページ

タイトル　手話放送への対応について

日本テレビ放送網

16ページ

日本テレビの手話放送について

毎週日曜　６時１５分から６時３０分に 「ＮＮＮニュースサンデー」を放送。

（本編尺１２分３８秒）

４人の手話通訳士と契約（公益財団法人　日本テレビ小鳩文化事業団）

ニュースの項目決定は放送のおよそ５時間前

（手話通訳のディレーを勘案し余裕をもたせた項目構成に）

手話ニュース用の文字スーパーを作成（左寄せ・より簡潔に）

必要があればあればＶＴＲを再制作する。

以下、写真2枚

写真1

アナウンサーと、ワイプ中の手話通訳士のテレビ画面の写真

写真2

インタビューに答える民進党の辻元幹事長代行と、ワイプ中の手話通訳士のテレビ画面の写真

以上で写真おわり

17ページ

日本テレビの手話放送について

放送およそ１時間前に項目確定

通訳士さんは放送１時間前にスタンバイ。

手話の様子を見ながら、アナの読みを調整することでクッションを使い最終的に番組尺に収める

以下、写真3枚。

写真1

放送の本番前に原稿を下読みするアナウンサーの横でそれを聞きながら予習する手話通訳士の写真。

写真2

放送本番のスタジオでカメラの前に立つ手話通訳士の写真。

写真3

アナウンサー、手話通訳士、スタッフがスタジオにいる写真。

以上で写真の説明おわり。

18ページ

現状と課題について

技術的課題

手話放送はオンオフ、切り替えの機能がなく、画面上に表示するしかない

ニュースの演出手法の多様化

手話対応のNNNニュースサンデーが唯一のアナウンサー１人での番組

番組内容、画面構成は多様かつ項目内容も多くぎりぎりまで変更される

以下、写真3枚

写真1

男女のアナウンサー2人が並んでニュースの項目を紹介しているテレビ画面。

写真2

男女のアナウンサー2人が並んでニュースの項目を紹介している画面。

写真3

女性アナウンサー2人が並んでニュースの項目を紹介している画面

以上で写真の説明終わり。

19ページ

現状と課題について

手話通訳者込みの放送について

番組制作上の課題として努力していく

手話通訳者について

手話通訳者の絶対数が足りておらず、首都圏に集中

ニュース通訳の専門性は高く、サポートする環境・組織が必要

以上で日本テレビ放送網の説明終わり。

以下、新潟テレビ21の説明。

21ページ

タイトル　ローカル局の字幕放送への対応について

新潟テレビ21

22ページ

ローカル局の字幕放送の現状

平成28年度ローカル局の字幕放送実績

対象番組に占める字幕番組の割合

全国の系列ローカル局（101社）　78.0％（＋1.2ポイント）

上記以外のローカル局（13社）　19.0％（＋1.1ポイント）

総放送時間に占める字幕放送時間の割合

全国の系列ローカル局（101社）　46.3％（＋1.5ポイント）

上記以外のローカル局（13社）　11.9％（＋0.5ポイント）

ローカル局の字幕放送実績推移

全国の系列ローカル局（101社）

平成24年度　66.4％

平成25年度　69.4％

平成26年度　74.0％

平成27年度　76.8％

平成28年度　78.0％

上記以外のローカル局（13社）

平成24年度　非公表

平成25年度　非公表

平成26年度　16.8％

平成27年度　17.9％

平成28年度　19.0％

※総務省発表資料より

23ページ

新潟テレビ21の字幕付与の現状(1)

新潟テレビ21字幕付与推移

総放送時間

平成24年度　496,843分

平成25年度　496,129分

平成27年度　498,276分

平成28年度　501,128分

字幕付与時間

平成24年度　142,140分

平成25年度　167,849分

平成26年度　232,661分

平成27年度　253,716分

平成28年度　267,598分

字幕付与率

平成24年度　28.61％

平成25年度　33.83％

平成26年度　46.96％

平成27年度　50.92％

平成28年度　53.40％

字幕付与時間のうちネット番組

平成24年度　137,691分

平成25年度　162,879分

平成26年度　224,528分

平成27年度　238,021分

平成28年度　255,617分

字幕付与時間のうち購入番組

平成24年度　4,310分

平成25年度　4,830分

平成26年度　7,993分

平成27年度　15,550分

平成28年度　11,741分

字幕付与時間のうち自社制作番組

平成24年度　139分

平成25年度　140分

平成26年度　140分

平成27年度　145分

平成28年度　240分

字幕付与時間の割合　ネット番組

平成24年度　96.87％

平成25年度　97.04％

平成26年度　96.50％

平成27年度　93.81％

平成28年度　95.52％

字幕付与時間の割合　購入番組

平成24年度　3.03％

平成25年度　2.88％

平成26年度　3.44％

平成27年度　6.13％

平成28年度　4.39％

字幕付与時間の割合　自社制作番組

平成24年度　0.10％

平成25年度　0.08％

平成26年度　0.06％

平成27年度　0.06％

平成28年度　0.09％

【参考】平成28年度新潟エリアの字幕放送実績

新潟県

対象番組に占める字幕番組の割合　79.5％

総放送時間に占める字幕放送時間の割合　48.9％

新潟放送

対象番組に占める字幕番組の割合　77.2％

総放送時間に占める字幕放送時間の割合　47.9％

新潟総合テレビ

対象番組に占める字幕番組の割合　74.8％

総放送時間に占める字幕放送時間の割合　51.5％

テレビ新潟放送網

対象番組に占める字幕番組の割合　83.0％

総放送時間に占める字幕放送時間の割合　43.0％

新潟テレビ21

対象番組に占める字幕番組の割合　82.0％

総放送時間に占める字幕放送時間の割合　53.4％

平成29年９月総務省発表

24ページ

新潟テレビ21の字幕付与の現状(2)

自社制作番組の字幕付与放送本数推移

ブロック制作番組

平成24年度　１本

平成25年度　１本

平成26年度　１本

平成27年度　１本

平成28年度　２本（再放送含む）

自社制作番組

平成24年度　１本

平成25年度　１本

平成26年度　１本

平成27年度　１本

平成28年度　２本

計

平成24年度　２本

平成25年度　２本

平成26年度　２本

平成27年度　２本

平成28年度　４本（再放送含む）

自社制作番組の字幕付与の方法

・自社制作番組への字幕付与実績はＶＴＲによる単発番組のみで、自社で付与できないため東京の制作会社に委託している。番組素材のやりとりを含め、１週間程度の期間が必要となり、現状の制作・納品スケジュールでは非常に困難である。

・新潟テレビ２１では、1週間の主要なレギュラー自社制作番組４本のうち３本が生放送となっている。生放送への字幕付与はより一層の費用や人員・設備が必要となることからＶＴＲの単発番組への字幕付与を第一と考えている。

新潟テレビ21の主要な自社制作レギュラー番組（ミニ枠のニュース・天気等除く）

・「ナマ＋トク」毎週月曜～金曜９：55～10：30 生放送情報番組

・「Jにいがた2部・3部」毎週月曜～金曜18：15～19：00 生放送ニュース・情報番組

・「まるどりっ！」毎週土曜日９：30～10：25 生放送情報番組

・「ヤンごとなき！」毎週木曜日24：20～24：50 ＶＴＲ バラエティ番組

25ページ

今後の方向性について

字幕率向上の取り組み

・キー局・準キー局の支援と共に、行政の支援も求めていく。

・自社制作番組において、字幕番組制作の意識改革を推進する。

・字幕付与の技術面での進歩は早いので、他業種と連携した取り組みを推進する。

生放送での自社制作番組の字幕付与

・生放送における字幕付与は、ＶＴＲ番組より更に費用・設備・人員を要し、経営的に困難である。まずは、生放送以外のＶＴＲ単発番組を優先して取り組むことが第一義である。

ユニバーサルサービスを意識した情報提供

・文字情報として、Ｌ字送出、ホームページ等を利用した情報提供を強化する。

26ページ

第１回研究会で出された課題

【自社制作を含むローカル局の放送番組の課題】

・字幕付与設備を備えている放送局は少なく、設置に関わる費用はローカル局経営のうえで非常に大きなネックとなっている。

・一方でキー局を中心に技術の進歩等とともに、字幕付与番組も増加してくれば、対象時間内の字幕番組の割合は確実に上がると推測される。

【緊急時におけるローカル放送番組の課題】

・ローカル局の緊急時における放送体制は、人数が少ない中、安全・安心で確実な情報を届けるため、ほぼ全員態勢で臨んでおり、字幕を付与することは非常に困難である。引き続き「各社での取り組み」という形を続けていく。

【ローカル局における解説放送付与の課題】

・ローカル局で解説放送を付与するには、字幕付与以上に人員等含めた費用が必要になる。また、付与するには台本作成～編集まで長い時間を要する。まずは自社制作ＶＴＲ番組の字幕付与に努めることを優先しながら、キー局などとの連携を含めた取り組みの強化を図っていく。

以下、BS-TBSの説明。

27ページ

タイトル　ＢＳ局(民放５局)の取り組みと今後の課題

BS‐TBS

28ページ

１ はじめに

平成12年（2000年）12月のＢＳデジタル放送開始から17年

視聴可能世帯の普及率70％台で推移

以下、グラフ。

グラフの内容。

＜ＢＳデジタル放送視聴可能世帯の推移＞

ＢＳデジタル放送視聴可能世帯数（万件）

ＢＳデジタル放送視聴可能世帯の割合（％）

2008（平成20）

視聴可能世帯数　2000万件

視聴可能世帯の割合　38.5％

2009（平成21）

視聴可能世帯数2740万件

視聴可能世帯の割合51.8％

2010（平成22）

視聴可能世帯数3303万件

視聴可能世帯の割合61.9％

2011（平成23）

視聴可能世帯数3765万件

視聴可能世帯の割合70.3％

2012（平成24）

視聴可能世帯数3971万件

視聴可能世帯の割合73.3％

2013（平成25）

視聴可能世帯数3947万件

視聴可能世帯の割合72.3％

2014（平成26）

視聴可能世帯数3995万件

視聴可能世帯の割合71.4％

2015（平成27）

視聴可能世帯数4015万件

視聴可能世帯の割合71.7％

2016（平成28）

視聴可能世帯数4046万件

視聴可能世帯の割合71.7％

以上の出典

総務省「衛星放送の現状」

平成29年度第２四半期版より抜粋

以上でグラフの説明終わり。

29ページ

これまでの編成方針

｢ＢＳならではの番組｣｢ＢＳ独自編成｣｢ＢＳ放送文化｣確立へ

一方で放送ファシリティ、コンテンツ制作＆調達等、地上波局への依存度が高い。

「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」開催の2020年へ向け、また、災害報道等においても「字幕放送」への関心・ニーズが高まる。

下向き矢印

2018年12月４Ｋ実用放送スタートに向け字幕付与向上目指した取り組みを推進。

30ページ

２ 取り組み（ＢＳ－ＴＢＳの場合）

字幕放送

パッケージ字幕付き番組のみの対応

対応例

購入番組（地上波ドラマ再放送）

最優先の取り組みとして

緊急報道特番（災害特番）は地上波を同時放送すること

地上波との連携がより綿密に行われるようになり、

地上波の報道特番（災害特番）を迅速に同時放送することが可能となった

地上波報道特番のリアルタイム字幕データの導入に向けて整備中

Ｌ字情報も設備改修により対応可能となっている

解説放送

一部の地上波再放送番組の解説放送を副音声で実施

31ページ

３ 今後の課題

字幕放送

リアルタイム字幕パッケージ字幕に対応するために

自局での制作体制の構築

地上波局の字幕制作セクションへの業務委託

ポストプロダクションへの制作発注

右向き矢印

設備　人員　コスト

購入番組

権利元への確認、許諾が必要⇒ 作業時間の大幅増

技術的な問題⇒ 古い作品では特に台本との照合の難しさや音声劣化が激しいなどの課題

納期の問題⇒ 字幕付与の制作工程を加味すると、納期の前倒しが必須

解説放送　手話放送

制作工程の大幅な見直しとコスト増への対応

32ページ

４ 今後へ向けての方向性

ＢＳ局の字幕普及目標の設定に関して

「４Ｋ実用放送での字幕付与率50％以上」(字幕付与可能な番組)の実現に向け注力。

「ＢＳデジタルハイビジョン放送(２Ｋ)」の字幕付与も各社の事業計画に準じて、段階的な拡充を検討。

対象時間（７～24時）の拡大に関しては、まずは、同時間内の字幕普及目標を第一に推進。

地上波・系列局のさらなる協力＆行政からの支援。

字幕付与への一層の意識改革の推進。

以上でBS-TBSの説明終わり。

以下、テレビ朝日の説明。

33ページ

タイトル　緊急時放送への対応について（2017年）

テレビ朝日

34ページ

テレビ朝日のリアルタイム字幕体制（リレー字幕）

2017年10月現在

以下、表の説明

通常時

準備時間

放送2時間前（固有名詞等の辞書登録など）

人員

1チーム6名（入力者：3名　チェッカー：1名　送出制御：2名）

連続編成時は、2チームにて対応

交代

番組単位もしくは、3時間交代

緊急時

準備時間

発災後、概ね５時間程度

（出社・準備作業)

人員

1チーム5名（入力者：3名　チェッカー：1名　送出制御：1名）

連続編成時は、2チームにて対応

交代

連続入力時間の目安は3時間程度

　※特番時に6時間以上の実績あり

以下、写真2枚の説明。

写真1

字幕を入力しているスタッフの写真

写真2

字幕を入力しているスタッフの写真

以上で写真の説明終わり。

35ページ

「熊本地震」時の緊急対応（字幕）について

前震　4月14日　木曜日　21時26分頃、熊本県で震度７が観測

緊急時放送の日時

4月14日　木曜日　21：30から

4月15日　金曜日　13：45まで、

連続16時間15分。

字幕付与時間

4月14日　木曜日　21：54から

4月15日　金曜日　13：45まで

連続15時間51分。

本震　 4月15日　金曜日　25時25分頃、熊本県で震度７が観測

緊急時放送の日時

4月16日　土曜日　01：50から

18：00まで

連続16時間10分。

字幕付与時間

4月16日　土曜日　06：00から

18：00まで

連続12時間。

以下、字幕対応人数の表

前震（4月１４日　木曜日　21時26分）の時の字幕対応人数

4月１４日　木曜日　時間　21時54分　字幕入力者　出勤　4名　送出制御者　出勤　２名

備考　２１時54分からレギュラー体制

4月15日　金曜日　時間　1時　字幕入力者　在室　4名　送出制御者　出勤1名　在室3名　備考　タクシーで緊急出社

2時３０分　字幕入力者　出勤　2名　在室　6名　送出制御者　在室3名　備考　タクシーで緊急出社

6時00分　字幕入力者　出勤　5名　退勤　6名　在室　5名　送出制御者　在室3名　備考　特別番組継続による臨時出社

9時00分　字幕入力者　出勤4名　在室　9名　送出制御者　出勤　4名　退勤　2名　在室　5名　備考　レギュラー出社（10時30分　放送）

12時00分　字幕入力者　出勤　4名　退勤　6名　在室　7名　送出制御者　退勤　3名　在室2名　備考　レギュラー出社（12時00分　放送）

4月14日と4月１５日の合計　字幕入力者　出勤　１９名　送出制御者　出勤７名

本震（4月15日　金曜日　01時25分）の時の字幕対応人数

4月１６日　土曜日　6時00分　字幕入力者　出勤　５名　在室　５名　送出制御者　出勤　２名　在室　2名　備考　臨時出社（余震からの継続対応）

12時００分　字幕入力者　出勤　5名　在室　5名　送出制御者　出勤　2名　在室　2名　備考　特別番組の継続による臨時出社

４月16日の合計　字幕入力者　出勤　5名　送出制御者　出勤　3名

以上で表の説明終わり。

36ページ

今後の方向性について

緊急災害時の強化

キー局/準キー局が中心となり緊急災害時の字幕対応の強化を図る

キー局は特に報道情報番組の字幕付与を推進する

ユニバーサルサービスを意識した番組作り

番組制作者の意識改革を推進する

質の改善＆標準化・規格化

実際の利用者との情報交換会の定例化等を検討

以上でテレビ朝日の説明終わり。

以上で資料終わり。